

Title	講演会：文化医療臨床人類学の展開：精神医学の歴史研究
Sub Title	
Author	宮坂, 敬造(Miyasaka, Keizo)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム人文科学分野論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2007
Jtitle	活動報告書 Vol.1, (2007.) ,p.15- 15
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	第2章：シンポジウム等の活動報告
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002002-20080300-0015

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

1

講演会

文化医療臨床人類学の新展開—精神医学の歴史研究

開催日 2007年7月25日
 企画班 哲学・文化人類学班
 企画者 宮坂敬造
 講演者 鈴木晃仁（塾内経済学部）、Allan Young（McGill University）

7月25日、＜文化医療臨床人類学の新展開＞シリーズの一環として、講師に鈴木晃仁慶應義塾大学経済学部教授（医学史研究）を迎え、Hysterics and Degenerates, Japanese Style: Doctors and Patients in a Private Psychiatric Hospital in Modernist Tokyo の演題にて講演会を開催した。演者は、精神医療のローカルな実践と変容の医学誌史・社会史的検討を通しての精神医学史研究の例として、1920-30年代の日本の精神医療の一面面と新興中流家庭での世代葛藤とが交差する様相について、王子脳病院の同時期のカルテ資料を用いた分析を示し、指定討論者Allan Young氏（McGill University、慶應義塾大学社会学研究科特別招聘教授）を中心に、活発な議論が行われた。

普遍性志向のもとで日本で普及した西洋精神医学が、実際には、地域的文化社会的制度的要因との相互作用によって屈折変容したかたちで使用される様相が日本の事例を通して、あきらかにされたが、今後さらに展開されるべき細かい方法論的課題、西洋でも同じ問題が文脈によってみられる点などが討論され、論理/感性の文化的規定要因に関する研究枠組作成の際に示唆となる論点が示された。

（宮坂敬造）



Center of Advanced Research on Logic and Sensibility

慶應義塾大学 グローバルCSEプログラム
 哲学・文化人類学プロジェクト 2007年度第1回研究セミナー

「文化医療臨床人類学の新展開」
 —— 精神医学の歴史研究：精神医療のローカルな実践と変容の医学誌史・社会史的検討を通して ——

講演者： 鈴木晃仁（慶應義塾大学・医学史研究）
 Hysterics and Degenerates, Japanese Style: Doctors and Patients in a Private Psychiatric Hospital in Modernist Tokyo

指定討論者： Allan Young（マギル大学・医療人類学）

司 会： 宮坂敬造（慶應義塾大学・人間科学・文化人類学）
 日 時： 2007年7月25日（水） 18:30-20:00
 場 所： 慶應義塾大学三田校舎・東館6階 6-56C LABO
 ※ 軽食提供（申し込み不要） ※

鈴木晃仁 1963年生まれ。東京人文学（社会学・社会学専攻）、ロンドン大学・キングス大学経済学専攻。慶應義塾大学経済学部教授。主要著書：Madness at Home (UCLA Press, 2006) 『身体性文化論 感覚と空間』（慶應義塾大学出版会、2002、5刷あり、絶版）。

アラン・ヤング 1958年生まれ。ペンシルベニア州立大学人類学博士。ロンドン大学・McGill大学国際社会学専攻（医学史）、人類学専攻。主要著書：1998年『ウェルカム・ホーム 帰郷を介して』（F. S. D. の訳）（慶應義塾大学出版会）、Path to Asian Medical Knowledge (UCLA Press, 1997)。

主催：慶應義塾大学内・相互的関係身体性文化医療人類学・人類学研究委員会
 慶應義塾大学 グローバルCSE「論理と感性の先駆的教員研究拠点形成」

●企画・お問い合わせ●
 慶應義塾大学・文学部・人間科学専攻研究室
 宮坂敬造
 FAX 03-5427-1570